

開発版

Excel-SQL 活用 マニュアル

Ver 5.0.0.0

株式会社ニューコム

2010年05月



《法的な注意事項》

本書に記載した内容は、将来予告なしに変更することがあります。

本ドキュメントの作成にあたっては細心の注意を払っていますが、本書マニュアルの記載事項の誤り、または欠落により発 生した損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

本書は、株式会社ニューコムが事前に承諾している場合を除き、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。

《著作権表示》

本書に関する著作権は、株式会社ニューコムへ独占的に帰属します。

株式会社ニューコムが事前に承諾している場合を除き、形態および手段を問わず、本書またはその一部を無断で複製・転載・ 改編することを禁止します。

《商標表示》

本書に記載されている「dbSheetClient実行版」、「dbSheetClient開発版」、「dbSheetClientサーバ版」は株式会社ニ ューコムの製品です。

本書に記載されているマイクロソフト製品(Windows、Office、Excel等)は、米国Microsoft Corporationの米国および その他の国における登録商標または商標です。

その他記載の各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

§ はじめに

db

本マニュアルは dbSheetClient の動作環境や内部処理、データベースアクセス制御方法などの技術情報について記載しています。よって、dbSheetClient で Web アプリケーション開発に必要な Excel の 関数と SQL 文のスキルを持っている人を前提にしています。

dbSheetClient でWebアプリケーションを開発するのに、3つのビジネスロジック(Excel シート編集、SQL 文作成、dbSheetClientの定義編集)を組み合わせて行います。「その3つをどのように組み合わせたらいいのか?」の理解を手助けするために本マニュアルを作成しました。

第1章 第1章 Excel とデータベースの関係を理解する

Excelとデータベースの苦手を理解するための説明をします。

第2章 データ量に応じて Excel シートのフォームを同期する方法

照会系リスト形式のフォームをデータ量に応じたフォームにする方法を説明します。

付録

改版履歴を記載します。



目次

§	はじめ)に		З
第	1章	Excelとテ	データベースの関係を理解する	5
	1.1	Excel の特	f徵	5
	1.1.1	複雑2	な表は苦手手苦は表な	5
	1.1.2	2 Exce	の文字入力を制限・制御する	6
	1.2	データベー	-スの特徴	11
	1.3	データベー	-スの情報は足し引き	12
	1.4	データベー	-スの機能と Excel の機能のどちらで実現するか?	13
第	2章	データ量に	に応じて Excel シートのフォームを同期する方法	14
	2.1	フォーム内]の行数が固定の場合	14
	2.2	フォーム内	Jの行数が固定の場合(データ切替あり)	15
	2.2.2	Exce	う 内の制御用セルの定義	15
	2.2.2	2 定義3	シートの定義	17
	2.3	行数が可変	の場合	22
	2.3.1	Exce	う 内の制御用セルの定義	22
	2.3.2	2 定義:	シートの定義	24
	2.4	一覧表示フ	?ォームからカード形式のフォームを表示する	27
	2.4.1	Exe	c e l 内のセルの定義	27
	2.4.2	2 定義:	シートの定義	31
§	付翁	ŧ		39
	A. 25	版履歴		40

dbSheetClient

第1章 Excel とデータベースの関係を理解する

dbSheetClient は、Excel とデータベースを活用し、ビジネス活動を高めるポテンシャルを持っています。そのためには、Excel とデータベースの関係をよく理解しておかなければなりません。 本章では、Excel とデータベースの関係を理解し、活用するためのポイントをまとめています。

1.1 Excel の特徴

db

Excel などの表計算ソフトは、ドキュメント編集ソフトの1つといえます。その中で、表形式に特化し、 さらに、強力な計算機能を内蔵していることで、個人や家庭から企業などに至るまで、さまざまな分野で 活用され、今ではなくてはならないソフトになってきました。

そしてその特徴を正しく理解していなくては、その機能を十分に発揮させることができません。

1.1.1 複雑な表は苦手

Word や html 編集は、表の中に表の組込みや、列・行の幅が違う表を作成することが可能ですが、Excel はそのようなことができません。そこで、行や列を組み合わせていろいろな表を作成します。





- ※ セルの連結を利用して、列幅の違う 表をシート内に作成します。
 ※ 表の固定部分は画面の上部に配置
 - し、可変部分を下部にすることで、
 視覚性の良い表や、表の上書きを防止できます。
- Aは、下の表が、セルの連結をしています。 Bは、上の表が、セルの連結をしています。 Cの上段は、表の合計部です。下の表は明細行が可変のため最 終行に合計部を表示すると視覚性が悪いため、表の上に合計部 を配置しています。

1.1.2 Excel の文字入力を制限・制御する

dby

Excelの入力は、基本的に入力や配置は自由です。そこで、項目のタイトルを明記し、列あるいは行に 同じ入力制限を設定することで入力可能な文字を制限し、業務で使用可能なフォームを作成します。

また、データベースの情報と同期する必要のあるデータを Excel 内で取り扱う場合、以下の注意が必要です。

① 運用時はシート保護を設定し、行列番号を表示しません。

エンドユーザが通常の Excel シートと同じと思い込み、行や列の編集をするのを防止するためです。 シート保護を設定済ならば、シートの編集が不可能にできますが、逆に「編集できない」というク レームになる場合もあります。これは、通常の Excel シートに見えることによる誤解が生じたため です。つまり誤解を防止するために、編集や表示する Excel シートは、行列番号の非表示やセル書 式設定の保護(ロック)とシート保護を組み合わせて、許可したセル以外の入力を禁止します。



② シート上にあるデータの行を削除してもデータベースのデータは削除されません。

エンドユーザは、Excel の操作と思っていると、シート内のデータをクリアしたり、データのある 行を削除したりすれば、データは消えていると思います。しかし、データベースと連携している場 合は、シートを変更しても、データベース上のデータを削除しない限り削除されませんので、再度 データを読込んだ時、「消したのに削除されていない」という問合せが必ず来るようになります。

シート上のデータを削除する場合は、シートに削除のマークを付けるなどして、データベースにど のデータを削除するのかを知らせる必要があります。



▼編集用シートで設定する例



③ 入力規則と関数を活用し、入力許可する範囲の値以外は許可しないようにします。

テータの入力規則	
設定 入力時メッセージ エラーメッセ・ IME 日本語入力(M): コントロールなし マークトロールなし マークトロールなし オン オン オン オン オン (英語モード) 無効 ひらがな 全角力タカナ 半角力タカナ 半角英数字: 半角英数字:	-ジ 日本語入力
	OK キャンセル

【日本語入力の制御による制限】

dby

英数字:"無効"を推奨します。この設定により日本語入力に切り替わることがありません。 それ以外は、入力する値の初期モードを指定します。

文字の種類		データの判定(直接の値、またはセルを指定)
数値	整数	①次の値の間
	小数点数	③次の値に等しい
日付	日付	④次の値に等しくない ⑤次の値より大きい
時刻	時刻	⑥次の値より小さい
文字	文字列数	⑦次の値以上⑧次の値以下
リスト	リスト	リスト表示する値をカンマ区切りで指定します。
ユーザー設定 ユーザー設定		(論理型)数式を指定します。

詳細は、Excel のヘルプを参照してください。

種類	数式	結果
数值	=ISNUMBER(A4)	数値ならば TRUE
文字	=ISTEXT(A4)	文字ならば TRUE
文字以外	=ISNOTTEXT(A4)	文字以外ならば TRUE
エラーが含まれる	=ISERROR(A4)	エラーならば TRUE
論理値	=ISLOGICAL(A4)	論理値ならば TRUE
全角	=LEN(A4)*2=LENB(A4)	全角ならば TRUE
半角	=LEN(A4)=LENB(A4)	半角ならば TRUE
日付	=OR(ISERROR(DATEVALUE(TEXT(A4,"	日付ならば TRUE
	yyyy/mm/dd"))),CELL("format",A4)<>"D1")	
	=FALSE	
時刻	=OR(ISERROR(TIMEVALUE(TEXT(A4,"	時刻ならば TRUE
	hh:mm:ss"))),CELL("format",A4)<>"D9")	
	=FALSE	
必須入力	=OR(NOT(ISBLANK(A4)),A4<>"")	空白以外ならば TRUE

[【]ユーザー設定の数式例】

dby

④ データの更新や印刷する場合、処理の前に必ず、③のチェックを行い、許可された場合のみ、処理
 を継続するようにします。

			「セル:A4」の入力規則
🗷 di	bS.#1 - Excel-SQL活用.xls	【読み取り専用】	データの入力規則
1 2 3 4 5 6 7 8	A 数値以外はエラーにする 入力欄 1000 チェック数式 TRUE dbSC判定式 0	B レセルの数式 =ISNUMBER(A4) =IF(A6=FALSE,1,0)	設定 入力時メッセージ エラーメッセージ 日本語入力 条件の設定 入力値の種類(A): ユーザー設定 ▼ ▼ 空白を無視する(B) データ(D): 次の値の間 ▼ 数式(E): =A6 ▼:
9 10 数式	dbSC 判定式は、エラーメッイ 欄は「セル: A6」を指定し、A6/ がFALSFならば、数値以外を2	2-ジ表示9スク よ、上記の数式を設定し 、カするとエラーになりま	□ 同じ入力規則が酸定されたすべてのセルに変更を適用する(P) すべてクリア(C) OK キャンセル よます。 にすっ。

ただし、メモ帳などから文字列をコピー&ペーストしてもエラーにはなりません。

● ■ ボタンを実行時エラーチェックをするタスク定義の例

7~7712	タスクタイプ属性	汎用パラメータ1	開始判定セル
318:メッセージ表示 二	エラー判定	数値を入力してください。	A8
406:印刷	プレビュー		

タスクタイプ「318:メッセージ表示」の「エラー判定」はエラーがあれば、指定メッセージを表示して処理を中断します。 開始判定セルに「A8」を指定し、その値が"0"の場合は正常で、"1"の場合はエラーになります。 ただし、メモ帳などから文字列をコピー&ペーストした場合でも、処理の実行時にエラーになります。

- ⑤ 重複データの登録防止は、データベースのテーブル定義でプライマリキー(ユニークな値持つ1つ または複数のフィールドで構成された情報)を必ず定義します。
 - ここでは、3つの重複チェックの方法を説明します。

dby

1) Excel シートの列にプライマリキーの値を含め、データベースの更新でエラーにする方法

	列名		データ型		Nullを許容	_					
3	社員コード		int								
	社員名		nvarchar(30)		~	_/					
	社員名力ナ		nvarchar(20)		~						
	性別		nvarchar(2)		V	*+	昌ㄱ—	ドがプラ	イマリ	1±	です
	生年月日		datetime		V	14		13 2 7			C /
	<i>≾n/≣</i> , ⊟		1 (10)								
	鄄1史番方		nvarchar(10)		~						
		主由应	nvarchar(10)								
<mark>★</mark>	^{郵便番号} (1部1 Excelシート定 余 <u>社員コード</u>	E義内容 社員名	nvarchar(10) ausechar/60) 社員名力ナ	性別	▼ □ 生年月日	郵便番号	<mark>住所1</mark>	<u>住所2</u>	TEL	FAX	Ţ
★	^{野(史田 ち} /+m-1 ·Excelシート定 余 社員コード	至義内容 <mark>社員名</mark>	nvarchar(10) ~·····char(40) 社員名力ナ	性別	▼ 生年月日	<mark>郵便番号</mark>	<mark>住所1</mark>	<mark>住所2</mark>	TEL	FAX	
★	^{動便番ち} (+〒1) :Excelシート定 余 社員コード	E義内容 社員名	nvarchar(10)	性別	✓ 生年月日	郵便番号	<mark>住所1</mark>	<u>住所2</u>	TEL	FAX	
★ Jß	^動 便番ち (+〒1 ·Excelシート定 涂 社員コード	E義内容 社員名	nvarchar(10)	<mark>性別</mark>	✓ 生年月日	<mark>郵便番号</mark>	<mark>住所1</mark>	<u>住所2</u>	TEL	FAX	
★ Jß	^那 便番ち (+〒1 *Excelシート定 除 社員コード	2義内容 <u>社員名</u>	nvarchar(10)	<mark>性別</mark>	▼	<mark>郵便番号</mark> 	<mark>住所1</mark>	<u>住所2</u>	TEL	FAX	

更新のタスク定義(『タスクタイプ リファレンス マニュアル「2.1 201:SQL(更新)■ 使用例」』を参照)をし、重複エラーの場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。



▲実行版の標準エラーメッセージ画面

- C D Α B チェック結果 =IF(SUM(A4:A10)=0.0.1) 3 3 H社員名 重複check 計員 社員名カナ 1 社員A 2 社員B 4 =IF(COUNTIF(\$A\$4:\$A\$10,\$A4)>1,1,"") シャインA 5 シャインB 3 社員C 6 シャイン 2 4 社員D シャインD 5 <u>社員E</u> 1 社員A ハヤイ =IF(COUNTIF(\$A\$4:\$A\$10,\$A10)>1,1,"") 10 1 条件付き書式の設定 X 条件1(1) **-**\$G21=1 . 数式が 条件が真のときに使用する書 式のプレビュー: AaBbCcYyZz 書式(E)... [追加(A)>> 削除(D)... OK キャンセル
- 2) Excel の関数を使用して重複をチェックする方法

 データのプライマリキーになる列で、A4~A10が重複チェックをするデータ範囲です。 また、重複があったセルがわかるように条件付き書式を設定しています。

- ② 重複チェック(E4~E10列)の数式です。
- ①の範囲に自分と同じ値が2件以上あれば、重複エラー(1)にします。

③ 重複があったかをdbSheetClientが判断するためのセルと数式です。 ②を集計し、"0"ならば正常、それ以外の場合は、重複エラー(1)にします。



タスクタイプ「318:メッセージ表示」の「エラー判定」はエラーがあれば、指定メッセージを表示して処理を中断します。 開始判定セルに「E2」を指定し、その値が"0″の場合は正常で、"1″の場合はエラーになります。

3) データベース側にデータを送信して重複チェックする方法

データベース側でデータのチェックをするためには、Excel シートのデータを作業用テーブル に更新する必要があります。そのテーブルのデータに重複データが含まれているかをチェック する SQL 文を発行し、結果を取得することによって、重複の有無を判断します。

社員マスタ以外に作業用のテーブルをデータベースに定義しておきます。このテーブルはプラ イマリキーになるシーケンス No と元のテーブルの中から必要な項目のみを定義したテープ ルになります。

★TEMP_社員マスタの定義

dby

	列名	データ型	Nullを許容	
▶8	No	int		< シーケンスNO(プライマリキー)
	社員コード	int		
	社員名	nvarchar(30)	 Image: A set of the set of the	元のテーブル(社員マスタ)より
	社員名力ナ	nvarchar(20)	 Image: A set of the set of the	チェックに必要な項目のみ定義

社員マスタ更新用のシートと別に、作業用テーブルの更新用シートを作成します。



タスク定義・クエリー定義・展開定義を設定します。

タスク定義			クエリー定義	展開定義
タスクタイプ	タスクタイプ属性	汎用パラメータ20	SQL文	開始判定セル
201:SQL	SQL更新		TRUNCATE [TEMP_社員マスタ]	
201:SQL	更新		UPDATE	
201:SQL	照会	シート後再計算	SELECT CASE WHEN COUNT(x.[社員コード]) > 0 THEN 1 ELSE 0 END AS [結果] FROM (SELECT DISTINCT [社員コード], COUNT([社員コード]) AS [重複数] FROM [TEMP_社員マスタ] GROUP BY (社員コード]) AS x WHERE x.[重複数] > 1	F8

1 行目の SQL 文: 作業用のテーブル内のデータをすべて削除します。

2 行目の SQL 文: dbSheetClient の更新処理のための定義

3行目のSQL文:サプクエリー側:社員コード毎のデータ件数を取得する定義です。

メイン側クエリー:サブクエリーの結果で重複数が 1 より大きいものが あれば、結果として"1"(重複あり)を返す定義です。

1.2 データベースの特徴

情報を目的などに応じて分類・集約し、格納するためのものです。格納された情報は共有化できますの で、データの一元管理が可能になります。

ー般的にデータベースは、情報の正規化が行われ、目的ごとのテーブルに情報を格納します。また、検索を高速にするために、プライマリキー(ユニークな値を持つ基準となるインデックス)を作成します。

データの取得は、単ーテーブルから取得する場合と、Join やサブクエリーなどを用いて、複数のテーブルから取得する場合などがあります。

データの取得時に毎回全件検索すると処理が遅くなるために、プライマリキーや他のインデックスを定 義して絞り込みを行うようにします。

1.3 データベースの情報は足し引き

dby

データベースに格納されている情報は、目的に応じて作成されます。情報の捉え方を別の角度から見る ようにすると必ず過不足が発生します。

例えば、1か月の売上の推移を求める場合、売上データが毎日必ずあるならば、売上データを1日単位 で集計し1か月分のデータ集めて求めます。

ただし、売上が毎日発生しないことが考えられますので、毎日のデータを集計することができません。 このような場合は日付を補完する情報が必要になります。よって、集計時に一次的に1か月の日付データ を生成し、その日付データに日ごとに集計した売上データを紐付けるような SQL 文を作成します。

さらに、営業日ベースで集計する場合は、営業日や休日を管理するカレンダーマスターの情報が必要に なります。また、イベントやキャンペーンの情報を表示する場合は、それらを管理するテーブルから情報 を紐付ける必要があります。

このように情報の特性を理解し、1 つのデータで情報不足が発生する場合は、不足分の一時的な生成や 他のデータを参照して補うようにします。



弁当予約システムの年間支払一覧を表示するための SQL 文

- ※ 変数テーブルに年間の年月データを作成し、そのデータに業者支払伝票データを紐付けして表示す るための SQL 分です。
- ※ SELECT 文は、生成した12か月情報をメインテーブルとして、月ごとに集計した注文金額を予 定として表示し、支払伝票の金額を実績として表示するための定義です。

実行結果は、『1.1.1 複雑な表は苦手』の図を参照

1.4 データベースの機能と Excel の機能のどちらで実現するか?

dby

データベース側の機能と Excel の機能で重複しているもの(例えば、合計を求める関数)があります。 これらを使い分けるには、社内にある開発標準化のためのルールに則って開発を進めると思います。 開発標準化のためのルールの例を下記に記載します。



第2章 データ量に応じて Excel シートのフォームを同期する方法

データベースからデータを取得してリスト方式で展開する場合、dbSheetClient の機能として展開先 シートのデータをクリアしてから、取得データを指定シートに展開します。(※1)

このとき、Excel シートのフォームを含めた展開をしませんので、データ展開と連動するようなタスク 定義をする必要があります。

※1. 対応するタスク定義のタスクタイプ

db

201:SQL (照会、SQL 更新)	230:集計表自動作成
203:データ照会画面	405:一括入出力(CSV 入力)
204:検索付きデータ照会	

取得したデータの量は、データを取得するごとに変わる可能性があります。そのため、データのクリア 後にデータを展開する方法を提供しています。しかしデータの展開ではフォームの更新を行われません。



▲▲▲ データを取得するタスクのみの場合、データの展開が実行する



▲▲▲ SQL 分(クエリー定義)の例、先頭5件を取得。 SQL 文は SQL Server 用です。

2.1 フォーム内の行数が固定の場合

下記図のように行数が固定の場合は、Excelのフォームは固定行として作成します。さらに、奇数行と 偶数行で背景色を変えるような場合は、Excelの条件付き書式を使用して背景色を変えます。



▲▲▲ フォームの行数が固定で、行ごとに背景色を変えたい場合

2.2 フォーム内の行数が固定の場合(データ切替あり)

dby

フォーム内のデータを切り替えるには、「<(前)」、「>(次)」などのボタンを定義し、そのボタンの クリック時に、該当するデータを取得する SQL 文を発行するタスク定義を行います。

そのためには、取得するデータにシーケンスNaを付加し、そのシーケンスNaで絞り込む SQL 文を定義 します。さらにその制御をするための情報を Excel シート内に定義する必要があります。



^{▲▲▲} 各ボタンのクリック時にデータを取得する例です。

上記の動作で定義する SQL 文(クエリー定義)は 1 つで可能です。そのためには、Excel 内に制御用のセルを定義し、また、それを活用するためのタスク定義を dbSheetClient に登録します。

2.2.1 Excel 内の制御用セルの定義



▲▲▲ Excel シートの定義例です。下記は定義内容の説明です。

db 2

項番	名称	内容
(A)	行数	名前定義名: 定数.行数
		フォームの明細行数を設定します。
(B)	開始	名前定義名: 定数.最小開始位置
		取得データのシーケンス番号の最小値を設定します。
(C)	終了	名前定義名: 定数.最大開始位置
		取得データのシーケンス番号の最大値です。
		(メニュークリック時にデータ件数を取得します。)
(D)	前. 開始	名前定義名: 変数.前開始位置
		「く」ボタンをクリック時の開始No.を数式で求めます。
		数式にて、(D)を求めます。
		=IF(条件 A,式①、式②)
		条件 A:変数.現開始位置(F) - 定数.行数(A)
		<定数.最小開始位置(B)
		式① :定数.最小開始位置(B)
		式② :変数.現開始位置(<mark>F)</mark> - 定数.行数(A)
		▼▼実際の数式
		=IF(変数.現開始位置-定数.行数<定数.最小開始位置,定数.最小開始位
		置,変数.現開始位置-定数.行数)
(E)	次.開始	名前定義名: 変数、次開始位置
		「>」ボタンをクリック時の開始No.を数式で求めます。
		数式にて、(E)を求めます。
		=IF(条件 B,式③、式④)
		条件 B: 変数.現開始位置(F) + 定数.行数(A)
	玩。用炉	
	旧物了	
	玩。 旅生 」	ロミルに我ロ・ 支致、玩作」 山 県 各ボタンのクリック時に表示しているデータ節囲の終了MMです
(H)	Now Start No^	2
		SQI文に渡す(F)のパラメータです。
(1)	^Now End No^	名前定義名: パラ現終了位置
		SQ 文に渡す(G)のパラメータです。
		こQL乂に波タ(5)のハフメーダで9。

2.2.2 定義シートの定義

dby

メニュークリック時に起動するタスクの定義
 メニュークリック時に起動するタスクは、取得データの件数を取得するために、SQL(照会)実行の
 タスクを定義します。ここでは、各定義シートでポイントとなる項目についてまとめています。

定義シート名	項目	内容	
メニュー定義	TASKNO	取得データ件数の取得用タスク NO を指定します。	
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL	
	リ リ 属性	照会	
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。	
	DNO	下記展開定義の展開定義 NO を指定します。	
クエリー定義	クエリータイプ	照会	
	川 属性	Query	
	SQL 文	SELECT COUNT(*) FROM [商品マスタ]	
展開定義	定義区分	クエリー定義	
	タイプ	照会	
	タスク・展開属性	Query	
	セル範囲	@定数.最大開始位置 (C)	
	セル展開範囲定義名	@定数.最大開始位置 (C)	

② 各ボタンクリック時の動作仕様

処理フローを作成し、共通化可能なタスクを洗い出します。



③ 各ボタンクリック時に起動するタスクの定義

dby

定義シート名	項目	内容
ボタン定義	ボタン名表示名	«
	TASKNO	「≪」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。
タスク定義	タスクタイプ	410:⊐ピー
	リーリ 属性	值
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@定数. 最小開始位置 (B)
	先セル範囲	@変数.現開始位置(F)
タスク定義	タスクタイプ	320:サブタスク実行
	11 11 属性	なし
	TASKJUMP1	共通処理のタスク NO を指定します。

■「く」ボタン用の各種定義

定義シート名	項目	内容	
ボタン定義	ボタン名表示名	<	
	TASKNO	「く」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。	
タスク定義	タスクタイプ	410:⊐ピー	
	リリ属性	值	
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。	
展開定義	定義区分	タスク定義	
	タイプ	コピー	
	タスク・展開属性	值	
	セル範囲	@変数. 前開始位置 (D)	
	先セル範囲	@変数.現開始位置(F)	
タスク定義	タスクタイプ	320:サブタスク実行	
	リリ属性	なし	
	TASKJUMP1	共通処理のタスク NO を指定します。	

■「>」ボタン用の各種定義

di X

定義シート名	項目	内容	
ボタン定義	ボタン名表示名	>	
	TASKNO	「>」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。	
タスク定義	タスクタイプ	410:⊐ピー	
	リリ属性	值	
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。	
展開定義	定義区分	タスク定義	
	タイプ	コピー	
	タスク・展開属性	值	
	セル範囲	@変数.次開始位置(E)	
	先セル範囲	@変数.現開始位置(F)	
タスク定義	タスクタイプ	320:サブタスク実行	
	リ リ 属性	なし	
	TASKJUMP1	共通処理のタスク NO を指定します。	

■「≫」ボタン用の各種定義

定義シート名	項目	内容
ボタン定義	ボタン名表示名	»
	TASKNO	「≫」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。
タスク定義	タスクタイプ	401:直接展開
	リ リ 属性	なし
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	直接展開
	数式 OR 值	=定数.最大開始位置(C)- 定数.行数(A) +1
	セル範囲	@変数.現開始位置(F)
タスク定義	タスクタイプ	320:サブタスク実行
	リ リ 属性	なし
	TASKJUMP1	共通処理のタスク NO を指定します。

■「Jump」ボタン用の各種定義

di X

定義シート名	項目	内容	
ボタン定義	ボタン名表示名	Jump	
	TASKNO	「Jump」をクリック時に動作するタスクNOを指定しま	
		す。	
タスク定義	タスクタイプ	202:入力画面	
	リリ属性	数值	
	画面名称	移動先 NO 入力	
	汎用パラメータ3	移動先の行No.を入力してください。	
	汎用パラメータ11	@変数.現開始位置(F)	
タスク定義	タスクタイプ	320:サブタスク実行	
	リリ属性	なし	
	TASKJUMP1	共通処理のタスク NO を指定します。	

■共通処理用の各種定義

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	410:コピー
	リリ属性	值
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@変数.現開始位置(F)
	自動計算方法	シート前再計算
	先セル範囲	@パラ.現開始位置 (H)
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@変数.現終了位置(G)
	自動計算方法	(先頭で1度行っているため不要)
	先セル範囲	@パラ.現終了位置 (I)

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL
	リ リ 属性	照会
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
	汎用パラメータ20	前再計算
クエリー定義	クエリータイプ	照会
	ル 属性	Query
	SQL 文	/* 変数定義 */
	※1、2	Declare @Now_Start_No int,
		@Now_End_No int
		Set @Now_Start_No = ^Now_Start_No^
		Set @Now_End_No = ^Now_End_No^
		Select "As [削除],[商品コード],[商品名],[単位],[単価],[分
		類] From (
		Select Row_Number() Over (Order By [商品コー
		ド]) As [NO],[商品コード],[商品名],[単位],[単価],[分類]
		From [商品マスタ]) As tmp
		Where [NO] Between @Now_Start_No And
		@Now_End_No
展開定義	定義区分	クエリー定義
	タイプ	照会
	タスク・展開属性	Query
	セル範囲	@表_固定
	セル展開範囲名	@表_固定

(db)

※1. サブクエリー側で行番号を付加してデータを取得します。

「Select Row_Number() Over (Order By [商品コード]) As [NO]」

※2.メインのクエリー文で、行番号の取得範囲を絞り込みます。

2.3 行数が可変の場合

dby

下記の図は、データベースのデータを Excel に展開した時に、Excel のフォームを連動させた場合のサンプルです。そのための制御情報を Excel シート内に定義する必要があります。



▲▲▲ データを取得した結果に応じて、Excelのフォームを連動した例です。

2.3.1 Excel 内の制御用セルの定義



▲▲▲ Excel シートの定義例です。下記は定義内容の説明です。

項番	名称	内容
(A)	書式保存範囲	名前定義名: 表.保存書式
		書式をコピーするためのコピー元領域です。

db 2

項番	名称	内容
(B)	展開範囲	 名前定義名:表展開範囲 取込みデータの展開範囲または、書式をコピーするためのコピー先 領域です。データ展開後この領域名の範囲は自動更新されます。 ※ 展開定義で省略した場合の名前定義名は"dbs_[シート名]"です。 ※ 展開定義で指定する名前定義名は、EXCEL シートに未登録でも可能ですが、数式などで使用する場合は、事前に登録しておく必要があります。
(C)	展開先先頭セル	名前定義名:表.展開先頭 取込みデータの展開先領域の先頭セル(領域の左上)です。 ※ 展開定義の名前定義名を指定可能です。
(D)	入力範囲開始	名前定義名: 表.入力範囲開始セル 取込みデータの展開先領域やクリア領域の先頭セル(領域の左上) を求めます。(※ クリア範囲開始としての意味もあります) =CELL([~] Address [~] ,(表.展開範囲 (B))) (CELL 関数で、展開範囲の左上隅にあるセル位置を取得します。) ▼▼実際の数式 =CELL([~] Address [~] ,(表.展開範囲))
(E)	入力範囲終了	名前定義名:表入力範囲終了セル 入力フォームの最終セルを求めます。展開データ量に応じて最終セ ル位置は変化します。 =ADDRESS(行番号,列番号) 行番号:展開開始行の行番号+展開データの行数+空行数-1 列番号:展開開始列の列番号+展開データの列数—1 (ADDRESS 関数で、展開範囲の右下にあるセル位置を取得しま す。) ▼▼実際の数式 =ADDRESS(CELL(″ROW″,表.展開範囲)+ROWS(表.展開範囲)+表. 空行数-1,CELL(″col″,表.展開範囲)+COLUMNS(表.展開範囲)-1)
(F)	入力範囲	名前定義名: 表.入力範囲 Excel フォームの入力範囲を求めます。 =入力範囲開始(D)&":"&入力範囲終了(F) ▼▼実際の数式 =表.入力範囲開始セル& ^{~.~} &表.入力範囲終了セル

項番	名称	内容
(G)	空行数	名前定義名: 表.空行数
		展開データ以降にデータ入力用の空行を作成するための行数を指定
		します。
(H)	クリア範囲終了	名前定義名: 表.クリア範囲終了セル
		入力フォームの最終セルを求めます。入力データ量に応じて最終セ
		ル位置は変化します。
		=ADDRESS(行番号,列番号)
		行番号:展開開始行の行番号+更新(入力)データの行数-1
		列番号:展開開始列の列番号+展開データの列数―1
		(ADDRESS 関数で、入力範囲の右下にあるセル位置を取得しま
		す。)
		▼▼実際の数式
		=ADDRESS(CELL("ROW",表.展開範囲)+IF(更新行数<1,0,更新行
		数),CELL(["] 表.展開範囲)+COLUMNS(表.展開範囲)-1)
(1)	クリア範囲	名前定義名: 表.クリア範囲
		Excelフォームのクリア範囲を求めます。
		=入力範囲開始(D)&"."&クリア範囲終了(H)
		▼▼実際の数式
		=表.入力範囲開始セル& ※ 後表.クリア範囲終了セル

2.3.2 定義シートの定義

処理フローを作成します。



■「読込」ボタン用の各種定義

db 2

定義シート名	項目	内容
ボタン定義	ボタン名表示名	読込
	TASKNO	「読込」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。
タスク定義	タスクタイプ	411:クリア
	リ リ 属性	書式
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	クリア
	タスク・展開属性	書式
	セル指定属性	間接
	セル範囲	@表.クリア範囲
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL
	リーリ 属性	照会
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
	汎用パラメータ20	前再計算
クエリー定義	クエリータイプ	照会
*	ル 属性	Query
	SQL 文	Select "As [削除][商品コード],[商品名],[単位],[単
		価],[分類] From [商品マスタ]
展開定義	定義区分	クエリー定義
*	タイプ	照会
	タスク・展開属性	Query
	セル範囲	@表.展開範囲 または、@表.展開先頭
	セル展開範囲名	@表.展開範囲
タスク定義	タスクタイプ	410:コピー
	川 川 属性	書式・コメント・入力規則・列幅
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	書式・コメント・入力規則・列幅
	セル範囲属性	直接
	セル範囲	@表.書式保存 (A)
	自動計算方法	シート前再計算
	先セル範囲属性	間接
	先セル範囲	@表.入力範囲(F)

dby

※ SQL 文は、表示する項目の先頭から展開する Select 文にします。また、展開定義は、表示する項 目の先頭からのセル位置を指定します。

2.4 一覧表示フォームからカード形式のフォームを表示する

ー覧表示から明細表示に切り替える場合があります。このような場合、それぞれをシートのフォームを 作成し、シートを相互に切り替えて表示するようにします。これは、タスクタイプの「420:セル位置取 得」を使用してカーソル行の情報を取得し、その情報を元に明細を表示します。



2.4.1 Excel内のセルの定義

dby

	1		(A)		(B)			(C))
		検	<u></u>	条	#			伝票枚数	売上金額(円)
		売上日	2007/01/01	~	2009/10/31			172	¥5,617,635
;	選択	支店CD	支店名	<mark>伝票枚数</mark>	売上金額(円)]	単位		
	\geq	3018604	栄店	4	¥100,150	Π	+14		
	\geq	2010048	横浜市神奈川区本店	8	¥215,500		1,400		
	<u>>></u>	3018605	戸塚店	1	¥3,630		1,200		
	\geq	3018607	今井南店	3	¥18,300		1,000		Πп
	<u>>></u>	3018602	若松店	21	¥1,181,300		800		
	<u>>></u>	3018613	静岡県掛川市北門支店	27	¥438,950		400		
	<u>»</u>	3018614	静岡県沼津市西島町支	12	¥330,090	1	200		
	<u>»</u>	3018612	静岡県浜松市寺島町支	14	¥479,850		0		
	<u>»</u>	3018610	静岡県富士市平垣支店	3	¥12,950	1	栄	◆横戸今若静 ■近塚井松岡 ■	静静静静相沢中藤
	<u>>></u>	3018611	静岡市葵区鷹匠支店	29	¥948,450		, , <u>, , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	市店南店県	県県県市大店店店
	<u>»</u>	3018601	相模大野店	26	¥914,410	1		一件 占 担 奈 川	▷冶浜富癸野 津松士区店
	\geq	3018609	沢渡店	17	¥701,700			川市	市市市鷹
	<u>>></u>	3018608	中尾店	4	¥166,095	1			島島垣支
	≫	3018603	藤沢店	3	¥106,260	1		店 支店	.町町支店 i支支店
_						<u> </u>			
上一覧表示用のセル定義です。									
の行数はクラノ先に作成するため、25 行分作成済にしてあります。(クラフ作成時はテストテーク									

を入れてグラフのフォームを作成します。)

『2.3 行数が可変の場合』のように、フォームを生成することも可能です。

dh 🖉



項番	名称	内容
(A)	売上日(開始)	名前定義名: 売上集計 2_売上日_FR
		売上データを日付範囲で絞り込んで取得するための売上日(開始)
		を入力します。初期値は当月月初(N)をコピーします。
(B)	売上日(終了)	名前定義名: 売上集計 2_売上日_TO
		売上データを日付範囲で絞り込んで取得するための売上日(終了)
		を入力します。初期値は当月月末(<mark>O)</mark> をコピーします。
(C)	合計	名前定義名: 売上集計 2_合計 (
		一覧表に表示した支店別伝票枚数の合計と支店別売上金額の合計を
		データベースから取得・展開します。
(D)	展開範囲	名前定義名:VDB_売上集計表2
		取込みデータの展開範囲または、書式をコピーするためのコピー先
		領域です。データ展開後この領域名の範囲は自動更新されます。
(E)	展開先先頭セル	名前定義:展開範囲(D)と同じにします。
		取込みデータの展開先領域の先頭セル(領域の左上)です。
		一覧表示の処理は、ここを基準にしています。
(F)	位置. シート名	名前定義: 売上集計 2_シート
		タスクタイプ「420:セル位置取得」で取得したシート名を格納する
		ためのセルです。
(G)	位置. 行 No	名前定義: 売上集計 2_行
		タスクタイプ「420:セル位置取得」 で取得した行 No を格納するた
		めのセルです。
(H)	位置. 列 No	名前定義: 売上集計 2_列
		タスクタイプ「420:セル位置取得」 取得した列 No を格納するため
		のセルです。

db 2

項番	名称	内容
	戻りセル	名前定義: 売上集計 2_戻りセル 明細から画面が戻った時にカーソルを停止しておくセル位置を求め ます。これは、画面が元に戻った時にカーソルの場所が不明になる ことを防止するためです。 =ADDRESS(位置.行 No (F),位置.列 No (G) + 1) ただし支店 CD (L) がない場合は、空白にします。 ▼▼実際の数式 =IF(売上集計 2_支店 CD 判定=1,ADDRESS(売上集計 2_行,売上集 計 2_列+1),‴)
(J)	デフォルト位置情報	名前定義:売上集計 2_位置_デフォルト 最初に表示した一覧表示内のカーソル位置を先頭位置にするため、 シート名と行 No を設定します。
(K)	位置. 支店 CD	 名前定義:売上集計2_支店CD 一覧表でカーソルが存在する行内の支店コードを取得します。 売上明細は、売上日(A、B)と支店CDで絞り込んだデータを取得します。そのために支店CDを求めます。 取得方法は、INDEX関数を使用し、一覧表の先頭行からの相対行を求め、その行の支店CDの値を求めます。 INDEX(展開範囲(D)、表の行No、表の列No) ▼東際の数式 =IF(ISERR(INDEX(VDB_売上集計表2,売上集計2_行-CELL(″ROW″,VDB_売上集計表2)+1,2)),0,INDEX(VDB_売上集計表2)+1,2))
	分岐式 (1:有効、2:エラー)	名前定義 : 売上集計 2_支店 CD 判定 取得した支店 CD (K) が正しい値かをタスク処理で判断させるた めのセルで、判定結果を求めます。 IF(VALUE(位置,支店 CD (K))>0,1,2) ▼▼実際の数式 =IF(or(Q6="",Q6<1),2,1)
(M)	一覧の開始セル	 名前定義: 売上集計 2_一覧開始セル指定 データ展開後に、タスクタイプ「426:ハイパータスク実行設定」で 「選択」列に"≫"を生成するための開始セルを求めます。 CELL("ADDRESS",展開範囲(D)) ▼▼実際の数式 =CELL("ADDRESS",VDB_売上集計表 2)

[【]前頁より続く】

【別貝みり称へ】

項番	名称	内容
(N)	当月月初	名前定義: 売上集計 2_当月月初
		メニュー「売上集計2」のクリック時と、クリアボタンのクリック
		時に、「売上日(開始)(A)」を設定し直す(コピー)ための元デー
		夕を求めます。
		DATE(日付(年),日付(月),1)
		▼▼実際の数式
		=DATE(YEAR(TODAY()),MONTH(TODAY()),1)
(0)	当月月初	名前定義: 売上集計 2_当月末日
		メニュー「売上集計2」のクリック時と、クリアボタンのクリック
		時に、「売上日(終了)(B)」を設定し直す(コピー)ための元デー
		夕を求めます。
		DATE(日付(年),日付(翌月),1)-1
		▼▼実際の数式
		=DATE(YEAR(TODAY()),MONTH(TODAY())+1,1)-1
(P)	取得データ件数	名前定義: 売上集計 2_取得データ件数
		一覧表示されたデータの件数をデータ展開時に設定します。また、
		タスクタイプ「426:ハイパータスク実行設定」で「選択」 列に"≫"
		を生成する時の件数に使用します。
(Q)	メッセージ	名前定義: 売上集計 2_MSGO1
		「≫」ボタンのクリック時、カーソルが一覧表のデータ範囲外にあ
		る場合に表示するメッセージです。
		「支店 CD を選択していません。」
(R)	^売上日 FROM^	名前定義: パラ.売上日_FR
		売上一覧データと売上明細データを取得した時のSQL文に渡す
		(A) のパラメータです。
(S)	^売上日 TO^	名前定義: パラ.売上日_TO
		売上一覧データと売上明細データを取得した時のSQL文に渡す
		(B) のパラメータです。
(T)	^支店 CD^	名前定義: パラ.支店CD
		売上明細データを取得する時のSQL文に渡す(K)のパラメータ
		です。

2.4.2 定義シートの定義

dby

メニュークリック時に起動するタスクの定義
 メニュークリック時に起動するタスクは、取得データの件数を取得するために、SQL(照会)実行の
 タスクを定義します。ここでは、各定義シートでポイントとなる項目についてまとめています。

定義シート名	項目	内容
メニュー定義	TASKNO	ー覧表を初期化するタスク NO を指定します。
タスク定義	タスクタイプ	411:クリア
	リ リ 属性	数式と値
	DNO	下記展開定義の展開定義 NO を指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	クリア
	タスク・展開属性	数式と値
	セル範囲	@VDB_売上集計表 2 (E)
	シート保護	有り
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	クリア
	タスク・展開属性	数式と値
	セル範囲	@売上集計 2_合計 (C)
	シート保護	有り
タスク定義	タスクタイプ	410:⊐ピー
	ル ル 属性	值
	DNO	下記展開定義の展開定義 NO を指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@売上集計 2_当月月初 (N)
	シート保護	有り
	先セル範囲	@売上集計 2_売上日_FR (A)
	先シート保護	有り
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@売上集計 2_当月月末 (O)
	シート保護	有り
	先セル範囲	@売上集計 2_売上日_TO (B)
	先シート保護	有り

dbSheetClient

② 各ボタンクリック時の動作仕様

dby



- ※ 「集計」ボタンは、取得データと展開先が異なるため、「SQL(照会)」を2回行い、データ取 得後に取得データ件数(P)も取得するので、その後、「ハイパータスク実行設定」で"≫"のリ ンクを「選択」列に設定します。なお、"≫"のクリック時に、「≫」ボタンが動作するように、 ボタン名と同じ値を「表示文字列」に設定します。
- ※ 「≫」ボタンは、"≫"のクリック時のカーソルのあるセル位置を取得します。その行の「支店C
 D」が正しい値のとき「サブタスクーA」を実行し、誤っているとき「サブタスクーA」を実行します。

「サブタスクーA」は、支店 CD をパラメータシートにコピーして、売上明細を取得します。その後、売上明細のシートと対応するメインボタンに切り替えます。

※ 明細から一覧に戻る「戻る」ボタンは、売上一覧に対応するシートとメインボタンを切り替えます。 シート切替で、元の行にカーソルが行くようにジャンプ先()を指定します。 ③ 各ボタンクリック時に起動するタスクの定義

定義シート名	項目	内容		
ボタン定義	ボタン名表示名	集計		
	TASKNO	「≫」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。		
タスク定義	タスクタイプ	410:コピー		
	リリ属性	值		
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。		
展開定義	定義区分	タスク定義		
	タイプ	コピー		
	タスク・展開属性	值		
	セル範囲	@売上集計 2_売上日_FR (A)		
	シート保護	有り		
	先セル範囲	@パラ. 売上日_FR (R)		
	先シート保護	有り		
展開定義	定義区分	タスク定義		
	タイプ	コピー		
	タスク・展開属性	值		
	セル範囲	@売上集計 2_売上日_TO (B)		
	シート保護	有り		
	自動計算方法	後再計算		
	先セル範囲	@パラ. 売上日_TO <mark>(S)</mark>		
	先シート保護	有り		
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL		
(一覧用)	リ リ 属性	照会		
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。		
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。		

■「集計」ボタン用の各種定義

dby

定義シート名	項目	内容
クエリー定義	クエリータイプ	照会
	ル 属性	Query
	SQL 文	 /* 変数定義 */ Declare @売上日 FROM datetime, @売上日 TO datetime, @請求先 CD int Set @売上日 FROM = [^]売上日 FROM^{^,} Set @売上日 TO = [^]売上日 FROM^{^,} Set @請求先 CD = [^]代表店 CD[^] SELECT " AS [選択],A.[得意先 CD] AS [支店 CD],A.[得 意 先 名] AS [支 店 名].COUNT(1) AS 伝 票 枚 数,SUM(A.[受注額]) AS 受注合計 FROM 受注問合せ AS A INNER JOIN 受注明細 AS B ON B.[受注伝票 NO] = A.[受注伝票 NO] AND B.[受注行 NO] = 1 WHERE A.[請求先 CD] = @請求先 CD AND B.[納品日] BETWEEN @売上日 FROM AND @売上日 TO GROUP BY A.[請求先 CD],A.[得意先 CD], A.[得意先名] ORDER BY A.[請求先 CD] ※ 受け取るパラメータは、変数に代入します。 ※ 売上日による絞り込みは、明細の1行目にある納品日 を売上日としていた場合、「INNER JOIN」により受注 明細側の紐付けを行います。
展開定義	定義区分	クエリー定義
	タイプ	照会
	タスク・展開属性	Query
	セル範囲	@VDB_売上集計表 2 (E)
	セル展開範囲名	@VDB_売上集計表 2(E)

db 2

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL
(合計用)		照会
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
クエリー定義	クエリータイプ	照会
	ル 属性	Query
	SQL 文	/* 変数定義 */
		Declare @売上日 FROM datetime,
		@売上日 TO datetime,
		@請求先 CD int
		Set @売上日 FROM = '^売上日 FROM^'
		Set @売上日 TO = '^売上日 TO^'
		Set @請求先 CD = ^代表店 CD^
		SELECT COUNT(1)AS 伝票枚数,SUM(A.[受注額]) AS
		受注合計
		FROM 受注問合せ AS A
		INNER JOIN 受注明細 AS B ON B.[受注伝票 NO] =
		A.[受注伝票 NO] AND B.[受注行 NO] = 1
		WHERE A.[請求先 CD] = @請求先 CD AND B.[納品日]
		BETWEEN @売上日 FROM AND @売上日 TO
		GROUP BY A.[請求先 CD],A.[得意先 CD], A.[得意先名]
		※ 受け取るパラメータは、変数に代入します。
		※ 売上日による絞り込みは、明細の1行目にある納品日
		を売上日としていた場合、「INNER JOIN」により受注
		明細側の紐付けを行います。
展開定義	定義区分	クエリー定義
	タイプ	照会
	タスク・展開属性	Query
	セル範囲	@売上集計 2_合計 (C)
	セル展開範囲名	@売上集計 2_合計 (C)
	シート保護	有り
	自動計算方法	シート後再計算

di X

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	426:ハイパータスク実行設定
	リリ属性	セルにリンク設定
	シート保護	有り
	セル指定属性	間接
	リンク設定セル	@売上集計 2_一覧開始セル指定(M)
	表示文字列	»
	同時設定数	 ⑩売上集計 2_取得データ件数 (P)

■「≫」ボタン用の各種定義

定義シート名	項目	内容
ボタン定義	ボタン名表示名	>
	TASKNO	「≫」をクリック時に動作するタスクNOを指定します。
タスク定義	タスクタイプ	420:セル位置取得
	シート保護	有り
	取得シート名	[@] 売上集計 2_シート (F)
	取得行番号	@売上集計 2_行 (G)
	自動再計算	シート後再計算
タスク定義	タスクタイプ	317:条件判定分岐
	開始判定セル	@売上集計 2_支店 CD 判定(L)
	TASKJUMP1	セル位置正常時のタスク NO を指定します。
	TASKJUMP2	セル位置誤り時のタスク NO を指定します。

■「セル位置正常時のタスク」の各種定義

di X

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	410:コピー
	11 11 属性	值
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
展開定義	定義区分	タスク定義
	タイプ	コピー
	タスク・展開属性	值
	セル範囲	@売上集計2_支店 CD (K)
	シート保護	有り
	自動計算方法	シート後再計算
	先セル範囲	@パラ.支店CD(T)
タスク定義	タスクタイプ	201:SQL
(売上明細用)	リリ属性	照会
	QNO	下記クエリー定義のクエリー定義 NO を指定します。
	DNO	下記展開定義の展開定義NOを指定します。
クエリー定義	クエリータイプ	照会
	11 属性	Query
	SQL Ż	 /* 変数定義 */ Declare @売上日 FROM datetime, @売上日 TO datetime, @支店 CD int Set @売上日 FROM = 、売上日 FROM、 Set @売上日 TO = 、売上日 TO、 Set @克店 CD = 、支店 CD、 SELECT B.[納品日] AS [売上日],A.[受注伝票 No] AS [受 付 No],B.[受注行 No] AS [行 No],[商品 CD],B.[商品 名],B.[数量],B.[金額],A.[顧客名] AS [注文者名] FROM 受注問合せ AS A INNER JOIN 受注明細 AS B ON B.[受注伝票 NO] = A.[受注伝票 NO] AND B.[納品日] BETWEEN @売上日 FROM AND @売上日 TO WHERE A.[得意先 CD] = @支店 CD ORDER BY B.[納品日],B.[受注伝票 No] ※ 受け取るパラメータは、変数に代入します。 ※ 売上日による絞り込みは、明細の1行目にある納品日 を売上日としていた場合、「INNER JOIN」により受注 明細側の紐付けを行います。

db 2

定義シート名	項目	内容
展開定義	定義区分	クエリー定義
	タイプ	照会
	タスク・展開属性	Query
	セル範囲	@VDB_売上明細表 2
	セル展開範囲名	@VDB_売上明細表 2
タスク定義	タスクタイプ	403:シート切替
	シート名	売上明細表2
タスク定義	タスクタイプ	310:メインボタン表示
	リ リ 属性	ボタン切替
	メイン BSNO	売上明細2用のメインボタンを定義してある BSNO

■「セル位置誤り時のタスク」の各種定義

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	318:メッセージ表示
	シート名	売上集計2(メッセージの裏に表示する Excel シート)
		※ 未設定の場合は、現在のカレントシートを表示します。
	セル指定属性	@売上集計 2_MSGO1 (Q)
	メインBSNO	売上明細2用のメインボタンを定義してある BSNO

■「戻る」ボタン用の各種定義

定義シート名	項目	内容
タスク定義	タスクタイプ	310:メインボタン表示
	リリ属性	ボタン切替
	メインBSNO	元の売上集計2用のメインボタンを定義してある BSNO
タスク定義	タスクタイプ	403:シート切替
	シート名	売上集計2
	シート保護	有り
	セル指定方法	間接
	ジャンプ先セル	@売上集計 2_戻りセル



§ 付録

A. 改版履歴



A. 改版履歴

バージョン	改版年月日	項番	変更内容
V5.0.0.0	2010年5月20日		初版公開

株式会社ニューコム (c) Copyright 2009-2010 NEWCOM CORPORATION.

本 社 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 7-3-16 ジブラルタ生命浦和ビル TEL:048-815-8460 FAX:048-825-5518

